



# 思い出いば



## 初夏の思い出 新屋千代子

到来！ 7月も終わり、もうすぐ8月です。巷では熱中症予防が話題になっていきますがクーラーの効いた部屋で、コーヒーを飲みながらTVを見ていると、ふと中学校の頃を思い出しました。

私の母校は沖縄市立美東中学校です。東側が運動場で西側には田んぼが広がり南側にはサトウキビ畑が広がっていました。サトウキビ畑の向こうは現在の運動公園ですが、その頃は茅やセンダンの木が生い茂っている原野で民家はありませんでした。月垣に赤いつるバラ優しく咲いてた〜



習ったばかりの歌を友達と大きな声で歌いながら田んぼのあぜ道を帰ったのも懐か

りました。台湾人の街中を通ると近道になるのですが、学校へは二、三〇人の子供たちだけで台湾人街を避けるように迂回して通ったものです。台湾人街の通りには物貴いがいて、通る私たちに「コーリヤンタンケイラ。チンコーテーヌーラ」と大声で叫んでいました。意味は解りませんが、その声は今でも耳の奥

踏建で、冬は寒く、夏は照り付けるような暑さでした。それで初夏の5月になると、全生徒で防暑対策のため、廊下に棚を架けその上に茅を広げてひさしを作

りました。台湾人の街中を通ると近道になるのですが、学校へは二、三〇人の子供たちだけで台湾人街を避けるように迂回して通ったものです。台湾人街の通りには物貴いがいて、通る私たちに「コーリヤンタンケイラ。チンコーテーヌーラ」と大声で叫んでいました。意味は解りませんが、その声は今でも耳の奥

にはつきりと残っています。その街のはずれには大きい池がありまいた。淡水魚がたくさんいて、よく魚釣りを楽しんでました。学校とちよほど反対側の方向には、明治製糖の大きな工場がありました。ある日、工場敷地内

つて、楽しんで作業しました。この作業を通して、茅の刈り方、棚の組み方、茅のそろえ方、茅の並べ方、固定の仕方、身をもちて学んだので、それより

可愛い思い出です。可愛らしい時期もあったのです。中学3年の頃の校舎は鉄筋コンクリート一

つたことを思い出したのです。茅は、今の運動公園あたりから刈り取って来ました。男子が刈り取った茅を女子が運びました。男子が先

生方と屋根に上り、女子は茅の長さをきれいに揃えて、運び係の男子に手渡します。屋根に上った男子は、先生の指導で棚に上手に茅をならべ頑丈に固定させて廊下に涼しい陰を作ったのです。普段は、粗野ですこし意地悪の男子たちがテキパキと働く姿がとても頼もしくすこいなど感動したものです。あの頃は、PTAというのもなく、私たちも生活の余裕がなかったの自分たちでやるしかなかったのです。でも、皆はそれがあたりまえと思

いと、突然戦闘機が飛んできました。「わーい、友軍機だ！」と二人で喜んで手を振っていたら、いきなりバリバリバリと、ものすごい音がしました。なんと、私たち子供二人を狙った米軍機の機銃掃射だったので、私たちは大慌てで家の近くの小さい防空壕に逃げ込みました。震えと涙が止まらなかつた。考えてみればそのころは敗戦色も濃く、友軍機は飛ぶはずもない。あと三〇センチずれていた



ら、二人とも命は無かつたでしょう。子供たちのことを案じながら防空壕へ避難していた親たちも、ほんとに生きた心地はしなかつたはず。戦後、敗戦で台湾人と日本人の立場が入れ替わりました。それでも台湾人は、私たち琉球人に対しては、おおむね好意的でした。中でも私たちに親切な台湾人が一人いて、衣類と食べ物との交換等いろいろと便宜を図ってくれました。子供心にも嬉しかったのですが、残念ながら名前が記憶にありません。

六歳の時、八重山に引き上げて来ました。家業が鍛冶屋で、棧橋用の大型の釘の需要があり、一日中ふいこの操作の手伝いをさせられました。遊んでばかりの他の子供たちがうらや

### ?私は何でしよう?



あ頃は、運動会や学芸会、卒業式の行事もすべて生徒の仕事でした。各自の役割があり、それぞれが一生懸命にその仕事を果たし、達成感を感じること知らず知らず自分に自信がついてきたのです。そのことを、無言のうちに教えて下さった先生方が、とても懐かしく思い出されます。

「子供のころの思い出と写真」投稿募集中

人生はいろいろです。いつしか鍛冶屋から火事場の火消しの仕事をするようになり、最終的に消防士として定年を迎えました。九死に一生を得る、そんな経験を幾度となくやりながらここまで生きてこられた人生を、今しみじみと思い出しています。子供や孫たちに囲まれた今の穏やかで平和な生活に、感謝しているところです。

ましかつたものです。そのうち、手斧や小さい釘づくりを任されるようになり、自然と鉄への愛着がわいてきました。いろいろかには八幡製鉄で鉄鋼を作ろうと、そんな夢を抱いたものです。



ら、二人とも命は無かつたでしょう。子供たちのことを案じながら防空壕へ避難していた親たちも、ほんとに生きた心地はしなかつたはず。戦後、敗戦で台湾人と日本人の立場が入れ替わりました。それでも台湾人は、私たち琉球人に対しては、おおむね好意的でした。中でも私たちに親切な台湾人が一人いて、衣類と食べ物との交換等いろいろと便宜を図ってくれました。子供心にも嬉しかったのですが、残念ながら名前が記憶にありません。

写真は 大城ヨシさんと 東江信雄さんです。